



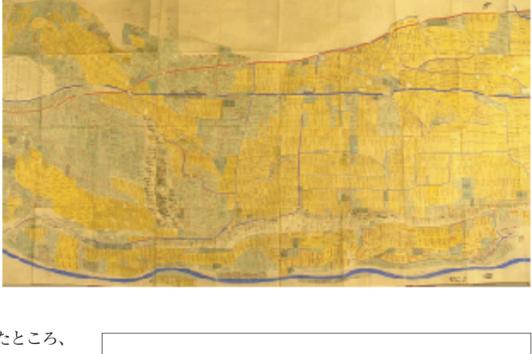
飯田市歴史研究所 千395-0002 長野県飯田市長飯沼3145 電話 0265-53-4670 ファクシミリ 0265-21-1173 E-mail iihrr@city.iida.nagano.jp



上飯田村の古絵図を発見!

このたび歴史研究所では、約130年前の上飯田村全体を描いた「信濃国伊那郡上飯田村地引絵図」(巻・式・三の3分冊)という貴重な絵図を発見、購入しました。今回はこの絵図について皆さんにご紹介します。

▶「信濃国伊那郡上飯田村地引絵図 巻」から、羽場地区の全体図。南に松川、西に風越山などの山林が描かれ、区内の田畑や道路などが細かく記載されています。



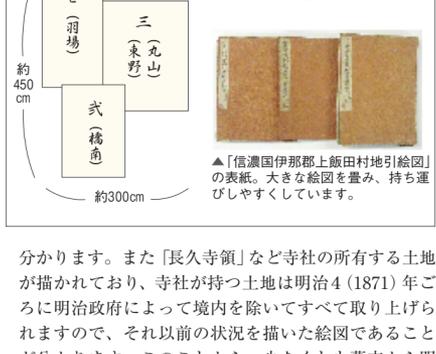
この絵図史料は東京の古書店に出品されていたところ、明治初期の上飯田村全体を詳細に描いた地図として大変貴重な史料であることが分かり、購入したものです。

「信濃国伊那郡上飯田村地引絵図」は、3枚の絵図から成り立っています。1枚目は羽場地区、2枚目は箕瀨町や愛宕、水の手から谷川の付近まで、橋南地区のうち旧飯田城下町を除いた地域、3枚目は丸山地区や東野地区のほか、橋北地区のうち大王路、小伝馬町など旧飯田城下町を除いた地域を描いています。

1枚あたりの幅が200センチ以上の大きな絵図で、3枚を合い印で合わせることで、江戸時代に上飯田村に属した地域すべてをカバーしています。

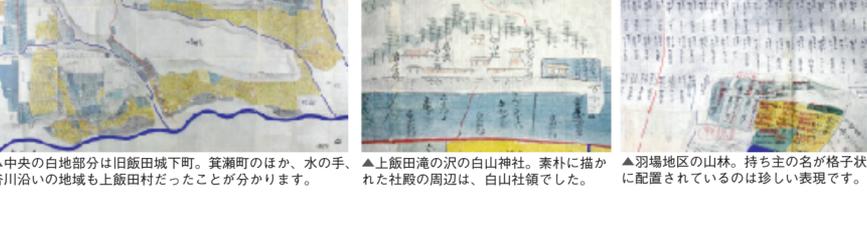
田畑、屋敷地、山林、荒地を色分けし、番地や面積などのほか、道路・水路・土地の区画や地形の様子、お寺や神社の建物まで細かく描きこまれ、当時の土地に関する詳細な情報を一目で得ることができます。大きいながらも実用に即した絵図面であったことは、区画の整理や合筆によって番地や面積が朱筆により訂正されたところからも確認できます。

絵図のつくられた年代は明記されていませんが、「土族持地」という記載から明治以後の史料であることが



分かります。また「長久寺領」など寺社の所有する土地が描かれており、寺社が持つ土地は明治4(1871)年ごろに明治政府によって境内を除いてすべて取り上げられますので、それ以前の状況を描いた絵図であることが分かります。このことから、少なくとも幕末から明治初期の上飯田村を描いた地図であるといえるでしょう。

この絵図は市民の皆さん、特に上飯田の方々の貴重な財産として、今後の歴史叙述の史料として大いに役立てていきたいと思います。



▲中央の白地部分は旧飯田城下町。箕瀨町のほか、水の手、谷川沿いの地域も上飯田村だったことが分かります。 ▲上飯田川の畔の白山神社。素朴に描かれた社殿の周辺は、白山社領でした。 ▲羽場地区の山林。持ち主の名が格子状に配置されているのは珍しい表現です。

飯田アカデミア

歴史学を中心とした専門研究者が、広い視野から、興味深い研究の最前線を分かりやすくお話しします。ぜひご聴講ください。

第46講座 (2日で4コマ) 講師: 宮坂廣作さん (東京大学名誉教授)
12月13日(土) 13:30~17:00
信州教育の栄光と挫折と再生

信州教育の名声は明治時代、近代国民教育体制(初等義務教育制度)が発足したときから高く、江戸期における寺子屋や藩学校の普及と実績によって、小学校の就学率は全国のトップクラスだった。教育行政当局も普及に熱心であり、優秀な教員が輩出して信州教育は大きく発展、中等教育も優れた校長・教員を得て、多くの人材を生み出した。

信州教育の名は、大正時代に一挙に上がった。師範教育の刷新によって師範と附属小学校が教育革新の拠点となり、信濃教育会の権威が上昇、白樺派の人道主義・芸術主義・個性主義を信奉する教師など、新教育の実践者達が信州教育の質を高めた。しかし、その栄光は一時期で終わり、やがて衰退し、戦後、信州教育は戦前の栄光を回復しないまま現在に至っている。講義では参加者とともに学ぶ姿勢で、信州教育の流れをたどり、栄光と挫折の理由を探りたいと思う。

12月14日(日) 10:00~14:30
下伊那教育の栄光と挫折と再生

信州は江戸時代に多くの藩に分かれ、地域が異なるでも文化も人の気質も異なる傾向があった。北信と南信、南信でも諏訪と飯田では文化圏が違った。近代になってからもそれは続き、下伊那には下伊那の個性がある。下伊那の特色は理論的などころであり、それ故に進歩的だった。つまり、信州人の特質とされるものが下伊那人では一層鮮明だった。

下伊那教育史を彩るのは、大正期の青年運動、特に自由大学運動である。内務省や軍部に支配されていた青年団を自主化した青年自身のものとし、自由に真理を探究しようとした実践だった。昭和初期における教育革新運動(いわゆる2・4事件)でも、下伊那は諏訪と並んで中心地だった。しかし、その後の下伊那教育史はどのような歩みをたどったのだろうか。元・現職教員や市民の皆さんとともに歴史を見直し、歴史から学び、意見や感想をいただきたい。

地域史講座 みるよまなぶ 飯田・下伊那の歴史

歴史研究所発行の「みるよまなぶ 飯田・下伊那の歴史」を題材にした講座です。戦時中に子どもたちが総動員された体操大会について、また、戦後地元で発展した企業に就職して高度経済成長期を担った世代についてお話しします。

- 12月6日(土) 午後1時~午後3時 「戦時体制下の体操大会」
・講師 田嶋 一(顧問研究員・國學院大学教授)
・場所 鼎公民館3階学習展示室
- 1月24日(土) 午後1時30分~午後3時30分 「時計生産を支えた女子社員」
一伊賀良地区と平和時計製作所一
・講師 本島和人(調査研究員・伊那西高校教諭)
・場所 伊賀良公民館第1会議室

第47講座 (1日で2コマ) 講師: 鈴木 良さん (元立命館大学教授)
2009年2月7日(土) 10:30~14:30
地域史研究の方法

歴史の研究対象は限りがない。その人の生き方にかかわっているのだから、追及したい対象を探ることが必要だと思う。私は高校に勤務しながら、奈良県地域で勉強できる課題に取り組みことにした。水平運動の成立と発展に関する研究である。関係者の聞き取りから始め、文書資料を収集した。10年、20年とやっているうちに課題が明確になってきた。自分の研究を反省すると三つの段階を経過してきたと思う。(1)地域の歴史的事実を発掘した段階。(2)これを他の諸事実と関連づける段階。(3)より客観的な歴史過程に位置づける段階。研究実践からつかんだ地域史研究の面白さをお伝えすることができればうれしいと思う。

第48講座 (2日で4コマ) 講師: 土生田純之さん (専修大学教授)
2009年3月7日(土) 13:30~17:00
飯田の古墳と社会

「飯田には古墳が多い」といわれる。しかし、800基に満たない数は、他に比して劣る少ない。恐らく前方後円墳の多さが冒頭の理解を招いたのであろう。この事実を起点として飯田の古墳時代社会を考えてみよう。

2009年3月8日(日) 10:00~14:30
飯田と「中央」、そして渡来人

古墳時代に「中央」は存在したのか?存在したとして、それは古墳時代の当初からか、それとも…。今回はこうした疑問に対して飯田の古墳、特に渡来人の動向を踏まえた分析を行うことによって迫りたい。

- 1コマは90分です。
- 会場 飯田市りんご庁舎3階会議室(飯田市本町1丁目15番地、地域交流センター)
- 募集人数 各講座30人
- 受講料 1コマ100円(資料代)
- 申込み・問い合わせ 電話、ファクシミリ、Eメール、ながの電子申請サービス(http://shinsei.e-nagano.lg.jp)で、歴史研究所へお申込みください。
- ファクシミリまたはEメールでお申込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記してください。

定例研究会

研究活動促進のため、公開の定例研究会を開催します。

1月17日(土) 午後2時~午後4時
「飯田遊郭の娼妓の生活」
講師: 齊藤俊江(調査研究補助員)
場所: 飯田市歴史研究所研修室

写真の力と語りの力

本島和人(調査研究員・伊那西高校教諭)

1枚の写真の背後にある大きなものが見えてくることもある。それを実感したのは2年前に「みるよまなぶ 飯田・下伊那の歴史」の企画に携わった時だった。平和時計製作所(現シチズン平和時計)の社史のなかの1枚の写真を取りあげることになった。1967年春、97名の女子新入社員を中心に木造の旧社屋を背景に撮られた記念写真。

この写真をどのように読みといていけばよいのか思案していた、そんな時この会社のベテラン女性社員が「信州の名工」として表彰されたことが新聞に掲載された。その方のお歳から推測すれば、あの入社記念写真に写っているに違いない、と確信した。

平和時計の総務部に問い合わせると、40年前の写真と新聞記事はみごとにつながった。ご厚意により会社がご本人から話を聞けることになった。その方が橋場悦子さんだった。写真を示すと、「これが私です」、おっぱの少女の一人を指さした。高校へ通いながらの勤務、ライン組立から自動機へ、手巻時計からクォーツへ、さらに現在の高級時計の手組みへと変化していく職歴。結婚すれば退職するという時代の共稼ぎと子育てのご苦勞など、作業着姿で1時



「入社記念写真」1967(昭和42)年撮影 シチズン平和時計(株)蔵(歴史研究所編「みるよまなぶ 飯田・下伊那の歴史」より)

間余にわたって話して下さった。その語りは、同じ団塊の世代に属する私にも新鮮に響いてきた。時計の組立に異なる世界を生きた同世代の女性の自信に満ちた人生は教えられることも少なくなかった。写真からは見えない記憶が語りによって紡ぎだされ、写真のなかの女性の人生と地域と戦後日本の姿が浮かび上がってくるように思われた。写真から見える世界が語りによって大きく広がっていくのを実感した。

飯田・下伊那には熊谷元一さんによって代表されるように多くの写真が残されている。モノクロ写真のなかの大人たちや子供たち、あの皆さんは60年余の日本をどう生きてこられたのだろうか。その人生を地域の戦後史のなかに位置付けられないだろうかと思っている。

市民の声

飯田歴史賞を受賞して

橋部進さん(近現代史ゼミ)

思いもかけない受賞にうれしいおもいです。更年期障害克服のため、飯田・下伊那の地域史を学ぼうとおもいました。以前から気になっていた「羽生三七」について、その思想的な経歴を羽生自身の論考を読むことにより、昭和史に位置づけをしてみようと思いました。資料不足もあり「改定」の要あることは筆者自身がよく知るところですが、一応の羽生の全体像がつかめたような気がしております。

今は、戦中期、河野村長であった「胡桃沢日記」を近現代史ゼミの仲間と読んでいます。この地域に生きた人達の日々の想い、営みに触れることにより、「この地域の現在」をより解かりたいと考えております。

橋部進著「それからの羽生三七―戦戦後の思想的変遷―」(「飯田市歴史研究所年報5号」所収) 羽生三七(1904~1985) 下伊那郡御典村に生まれる。家業の米穀商を手伝いながら松清義塾に通い、短歌誌「夕櫻」を創刊。1920年代から社会主義運動をし、LYLを結成。1924年換筆される。戦時中は長野県会議員。戦後初の御典村長。1947年第1回参議院選挙で社会党から立ち当選、以後30年間国会議員を務めた。

■2日 都市研究センター路のぼり草切報告「遊研社会」齊藤俊江
■4日 近現代ゼミ「清川路村の煙草切報告」
■6日 北原市朗氏所蔵史料調査
■8日 定例研究会「高度経済成長期における農業政策の調査形態」坂口正彦
■9日 上郷考古博物館秋企画展講座「飯田城下町のように」馬場保之
■10日 研究員(近代史)採用公募(~12/26)
■11日 建築史ゼミ「安曇野の本棟造」
■11~13日 鼎中学校生徒職場体験学習受け入れ
■12日 近現代ゼミ「米の消費」
■12~13日 松川高校生徒職場体験学習受け入れ
■13日 近現代ゼミ「文献講読『昭和の記憶を振り起こす』」
■18日 教育委員会、旧瀧澤院を市有形文化財に指定/近現代ゼミ「虎岩村蚕玉社造営留」
■20日 西徹氏所蔵史料調査
■21日 地域史講座「実写された桑葉」上山和雄
■26日 北原市朗氏所蔵史料調査/現代史ゼミ「飯田・下伊那の長期的変化」
■27日 近現代ゼミ「飯田町の暮らし」編集会議
■28日 信地域史の養蚕飯田町
■29~30日 飯田アカデミア第45講座「邪馬台国からヤマト王権へ-後の五王とワカケル」

■継続調査 松澤卓治氏所蔵文書、北原市朗氏所蔵史料、菊池謙一・幸子史料、後藤信正氏所蔵文書、今村八東氏所蔵文書、森本信正氏所蔵文書、北原嘉雄氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初太郎氏所蔵中伍市関係史料、上松家所蔵文書、中原謹司史料、福操氏史料、岡田昭夫氏所蔵文書、南原区民センター所蔵文書、部奈一朗氏所蔵文書

歴史ゼミ 12・1月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。
■時間 午後7時~8時40分(各ゼミ共通)

近世史ゼミ	
近世下伊那の民衆生活史	
■開催日	第1・第3火曜日 12月2日・16日 / 1月6日・20日
■担当	竹ノ内雅人(研究員)

近現代史ゼミ	
地域社会史入門-飯田町の記憶を探る-	
■開催日	第2・第4木曜日 12月11日 / 1月8日・22日
■担当	田中雅孝(調査研究員)

現代史ゼミ	
地域社会とグローバル化	
■開催日	隔週水曜日 12月10日・24日 / 1月7日・21日
■担当	鬼塚博(研究員)

建築史ゼミ	
建築と町並みの見方	
■開催日	第2火曜日 12月9日 / 1月13日
■担当	金澤輝記(研究員)

12月		1月	
月	日	月	日
火	1	金	1
火	2	土	2
水	3	日	3
木	4	月	4
金	5	火	5
土	6	水	6
日	7	木	7
月	8	金	8
火	9	土	9
水	10	日	10
木	11	月	11
金	12	火	12
土	13	水	13
日	14	木	14
月	15	金	15
火	16	土	16
水	17	日	17
木	18	月	18
金	19	火	19
土	20	水	20
日	21	木	21
月	22	金	22
火	23	土	23
水	24	日	24
木	25	月	25
金	26	火	26
土	27	水	27
日	28	木	28
月	29	金	29
火	30	土	30
水	31	日	31

開所日 午前9時~午後5時
開所時間 日曜日、月曜日、祝日、12月29日~1月3日

活動紹介

職場体験学習

歴史研究所では、中学・高校生の職場体験学習を受け入れています。今年度は、竜映・竜東・鼎・泰華各中学校、松川高校から、研究所での体験を希望する生徒たちが訪れ、歴史研究の仕事の概略説明の後、建造物調査・古文書の現状記録調査・フィールドワーク撮影などに取り組みました。

この体験を通して、自分たちの生きている社会の歴史を調べることの意義を感じてもらいたいと考えています。

先日の職場体験では貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。おかげさまで下伊那の古民家や歴史について学ぶことができました。特に心に残っているのは、今も人が住んでいる古民家です。見た目や室内の斬新な使い方に驚きました。また、史料に実際に触らせてもらい、歴史の教科書に載っている証文などがこの下伊那にもあったことがわかりました。松尾俊太郎さん(竜映中学校2年)の手紙より



歴史日誌

- 11月 1日 現代史ゼミ「下伊那の農業労働日数」
- 7日 近世史ゼミ「水戸浪士宛座光寺村北原稲雄等間道通行願」
- 9日 建造物調査(本棟造)
- 7日 浜井場小学校6年総合学習「わたしたちの飯田」馬場保之/近現代史ゼミ「研究報告「飯田遊郭の娼妓の生活」」
- 14日 建築史ゼミ「茶室」
- 14~16日 松川高校地域史講座「江戸時代下伊那の都市と農村」竹ノ内雅人
- 15日 近現代ゼミ「恐慌期の農業経営1」
- 16日 建造物調査(本棟造)
- 17日 県史料保存活用協議会講習会参加(長野県立歴史館)
- 19日 地域史講座「盛んなる組合製糸」田中雅孝
- 21日 近世史ゼミ「飯田藩領の村々」
- 22・28・31日 建造物調査(本棟造)
- 23日 近現代史ゼミ「文献講読『昭和の記憶を振り起こす』」
- 25日 定例研究会「1920~1930年代の農家経営」鬼塚博
- 28~29日 竜映中学校生徒職場体験学習受け入れ
- 29日 山公民館「風越山と暮らしを考える講座」馬場保之/現代史ゼミ「恐慌期の農業経営2」
- 31日 公澤卓治氏所蔵文書現状調査

- 12月 2日 都市研究センター路のぼり草切報告「遊研社会」齊藤俊江
- 4日 近現代ゼミ「清川路村の煙草切報告」
- 6日 北原市朗氏所蔵史料調査
- 8日 定例研究会「高度経済成長期における農業政策の調査形態」坂口正彦
- 9日 上郷考古博物館秋企画展講座「飯田城下町のように」馬場保之
- 10日 研究員(近代史)採用公募(~12/26)
- 11日 建築史ゼミ「安曇野の本棟造」
- 11~13日 鼎中学校生徒職場体験学習受け入れ
- 12日 近現代ゼミ「米の消費」
- 12~13日 松川高校生徒職場体験学習受け入れ
- 13日 近現代ゼミ「文献講読『昭和の記憶を振り起こす』」
- 18日 教育委員会、旧瀧澤院を市有形文化財に指定/近現代ゼミ「虎岩村蚕玉社造営留」
- 20日 西徹氏所蔵史料調査
- 21日 地域史講座「実写された桑葉」上山和雄
- 26日 北原市朗氏所蔵史料調査/現代史ゼミ「飯田・下伊那の長期的変化」
- 27日 近現代ゼミ「飯田町の暮らし」編集会議
- 28日 信地域史の養蚕飯田町
- 29~30日 飯田アカデミア第45講座「邪馬台国からヤマト王権へ-後の五王とワカケル」

■継続調査 松澤卓治氏所蔵文書、北原市朗氏所蔵史料、菊池謙一・幸子史料、後藤信正氏所蔵文書、今村八東氏所蔵文書、森本信正氏所蔵文書、北原嘉雄氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初太郎氏所蔵中伍市関係史料、上松家所蔵文書、中原謹司史料、福操氏史料、岡田昭夫氏所蔵文書、南原区民センター所蔵文書、部奈一朗氏所蔵文書